

今回のテーマは、ゲーム・ボール運動の中から『ネット型ゲーム・ネット型』についてです。

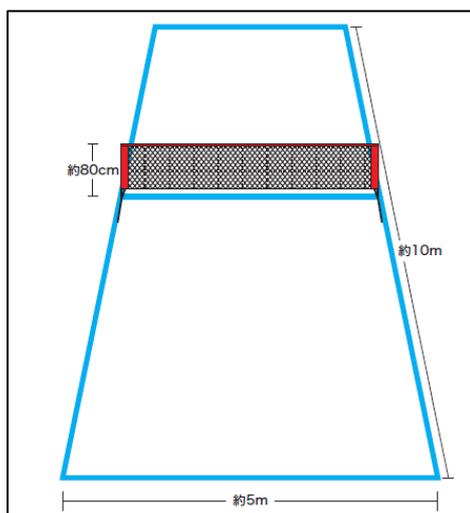
## 小学校体育におけるボールゲームの課題は？

- 運動能力の高い児童がボールを独占してしまう。
- ゲーム中、一度もボールに触れられない、シュートを打てない児童がいる。
- 運動能力が高くて、実際のゲームでそれを生かしきれずに満足していない。



運動能力のレベルに関わらず、すべての児童がボールゲームの授業に満足しているとは言い難い。  
→すべての児童が、ボールに触れる機会や得点できる機会が保障されていない・・・

## すべての児童がボールに触れる機会がある『テニピン』を紹介します



- コートの広さ、縦が約10m、横が約5mです。
- ネットの高さは、約80cmです。
- ネットは、ハードルやコーンバーなどでも代替できます。



- ラケットは、手の平に差し込んで使う市販のラケット（左写真）や20cm×20cmの段ボールで手作り（右写真）することもできます。スポンジボールを使用します。



- ゲームはダブルスで行い、合計得点で勝敗を競います。
- 4回ラリーをして、その後の5球目以降からの攻撃で得点が認められるようにします。そのため、1得点が入る中で全員がボールに触れることができます。
- 必ず、ペアで交互に打ちます。すべての子どもが平等にボールに触れる機会を保障します。ツーバウンドまでOKとし、スリーバウンドしたら、相手チームの得点となります。
- 4回のラリー中は得点が認められないため、ラリーに失敗した場合は、失敗した人からラリーを再開します。
- サーブは1バウンドさせてから、相手が打ちやすい場所へ送り出します。

R8. 1. 16 (金) に体育専科授業公開でテニピンをします。実技研も行います。ぜひ、ご参加ください。

